

神奈川県栽培漁業協会では、マダイを卵から孵し、ある程度大きくなったところの放流ポイントへ。合図とともに、大きく育つようにと願いを込めて放流した。

強い日差しが照りつける中、小網代港から船に乗り、港から出たところの放流ポイントへ。合図とともに、大きく育つようにと願いを込めて放流した。



去る8月11日、シマノの主催によるマダイ放流事業が、神奈川県三浦半島、小網代港にて開催された。このイベントは、シマノが会社創立90周年を迎えるにあたっての記念事業というものの、豊かな海と、美しい釣り場を維持するために、全国4箇所においてマダイの稚魚の放流事業を実施。その第一回目が、神奈川県栽培漁業協会の協力のもと開催されたのである。

シマノ創立90周年を記念して開催!

いつまでも豊かな海が続くことを祈って……

マダイの稚魚放流

文◎SALT WORLD

ちなみに今回、放流されたのは6・5cmほどに育ったマダイ。約4ヶ月でこのサイズになるとのこと、今回のマダイたちは、4月20日に卵から孵った魚たちだといふ。

放流場所に到着後は合図とともに、島野泰三さん、後藤勇さん、高橋哲也さん、長浜いりあさん、流川ミサさんが放流。放たれた稚魚たちは、元気に大海原へ泳いでいった。このマダイたちが、自然の中ですくすく育ち、成魚になって子孫を増やし、ずっとずっと私たちを楽しませてくれることを期待したい。



今回、シマノ創立90周年記念事業として、8月11日に小網代港にてマダイの稚魚を10万匹放流。その後、12日には大阪で5万匹、17日は山口県で5万匹、19日は熊本県で5万匹のマダイの稚魚が放流された。セレモニー会場ではシマノ取締役・釣具事業部長・島野泰三さんから神奈川県栽培漁業協会理事の後藤勇さんへ目録が贈呈された。

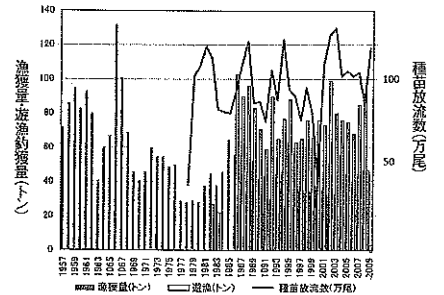
果水準を維持することを考えると、この放流事業は欠かせないとのことであった。マダイ釣りを今後も今までもどおり楽しむためには、放流事業がいかに大切なのかを実感した話であった。

その後は、参加者とともに小網代港へと移動。今回の放流事業には、神奈川県にも縁の深いシマノインストラクターの高橋哲也さん、長浜いりあさん、流川ミサさんも参加。小網代港では、マダイの稚魚が積み込まれた放流艇と撮影艇に別れて乗船し、併走しながら港からすぐの放流ポイントを目指した。

マダイ稚魚放流事業の効果と必要性

神奈川県栽培漁業協会では、毎年マダイの稚魚を80~120万匹、東京湾と相模湾に放流している。放流事業をする前は遊漁によるマダイの釣果は3.8トンという非常に少ないものであったようだが、放流が始まって9年後から、遊漁によるマダイの釣獲量調査を始め、年によって変動はあるが、遊漁による釣獲量は、漁業の釣獲量の2倍近くに達しているという。漁獲量は放流後には大きな変動がなく安定した状態を保っているが、増大はない。ちなみに2006年の調査では、マダイ捕

獲量136トンのうち、75%遊漁、25%漁業という結果も出ている。これらからも分かるように釣りによるマダイの捕獲数は大きく、釣り人側も放流事業への協力は必要と考えられる。そのようなことから、神奈川県では2001年度からマダイの釣り人が1回乗船するごとに200円の協力金制度を導入。さらにマダイ船に1ヶ月1隻1万円の制度を加え、その寄付を加えて毎年の放流数の維持をしている。今後、マダイ釣りを楽しむためには、皆の協力が必要なのである。



マダイの漁獲量・遊漁釣獲量と稚魚放流数の経年変化
※神奈川県栽培漁業協会作成